

令和 5 年 6 月 20 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K11298

研究課題名（和文）急性期後早期の精神障害者に対する訪問リハビリテーション介入の確立

研究課題名（英文）Home-visit rehabilitation intervention for persons with mental disorders in the early post-acute period

研究代表者

橋本 健志（Hashimoto, Takeshi）

神戸大学・保健学研究科・教授

研究者番号：60294229

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000 円

研究成果の概要（和文）：精神障害者の意味のある生活の実現は重要命題である。彼らの地域生活の継続や急性期後早期からの地域生活再開を可能にするためには、急性期後早期からの精神科訪問リハビリテーション介入の確立が必要である。今回の研究の知見を示す。「生活行為向上マネジメント」を利用した訪問リハ介入は、精神障害者の社会機能を向上させた。その介入を介して、障害者が満足感を持ち、社会参加することによって、彼らのQOLの向上につながった。訪問専門職への調査は、訪問を安全に実施するための要因を明らかにした。介入に関わる専門職のスティグマ低減教育プログラムを開発した。以上により、急性期後早期における精神科訪問リハ介入の確立に寄与した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

すべての人が「意味のある生活」をすることはたいへん重要です。心に病を持つ者も、入院することなく、地域で意味ある生活を送ることを実現するためには、新しい精神科訪問リハビリテーションが必要です。私達は以下の研究成果を得ました。「生活行為向上マネジメント」を利用した訪問リハは、精神障害者の社会機能を向上させ、この介入を介して、障害者が満足感を持ち社会参加することによって、彼らのQOL向上につながった。訪問専門職への調査により、安全な訪問のために必要な要因を明らかにした。訪問介入に関わる専門職のスティグマ低減プログラムを開発した。以上により、急性期後早期における精神科訪問リハ介入の確立に寄与しました。

研究成果の概要（英文）：Enabling people with mental disabilities to live meaningful lives is an important issue. In order for them to continue living in the community after their illness, or to resume living in the community early after the acute phase, psychiatric home-visit rehabilitation intervention in the early post-acute phase is necessary. The new findings are as follows. The home-visit rehabilitation using the "Management Tool for Daily Life Performance; MTDLP" improved the social functions of mentally disabled persons in the community. Through this intervention, the disabled persons had a sense of satisfaction and social participation, which led to an improvement in their QOL. The questionnaire survey referred to the safety factors of the home-visit intervention. Furthermore, an educational program was developed to reduce or eliminate stigma and prejudice from professionals. These contributed to the establishment of a psychiatric home-visit rehabilitation intervention in the early post-acute period.

研究分野：精神障害リハビリテーション

キーワード：リハビリテーション 精神障がい 統合失調症 作業療法 訪問看護 訪問リハビリテーション

1. 研究開始当初の背景

精神障害者の地域生活への移行および継続のためには、精神障害の急性期後早期からのリハビリテーション介入が重要である。かつては精神障害の急性期には精神科病院に入院することを前提として医療構造が構築されてきた。急性期患者の幻覚妄想、精神運動興奮等の陽性症状の治療に重きが置かれ、身体拘束や隔離、閉鎖病棟の処遇などが実践され、それらはしばしば長期化していた。さらに、生物学的治療としての薬物療法は、入院時にはとくに鎮静・静穏作用の強い薬剤が積極的に用いられた。これらの処遇や治療は、患者にとってトラウマ様体験となりうるものが指摘され、それが自己効力感の低さ、取り残され感、孤立無援感を誘発し、回復阻害因子となり、地域生活への移行を困難にしていることも繰り返し指摘されてきた。そこで、2004年には、入院治療中心から地域生活中心へのパラダイムシフトによって、国を挙げて、精神障害者の回復促進を目指すこととしたが、精神科病院を巡る事件等を考慮すると十分な結果がもたらされたとは決して言えない。そこで、前駆期・急性期・消耗期・回復期などの精神疾患のあらゆる経過時期において、入院や地域などの患者を取り巻く医療状況にかかわらず、地域生活そのものを念頭においたリハビリテーション介入が必要であるが、その技法が確立しているとは言えない。

2. 研究の目的

慢性期よりも急性期の方が、患者は周囲の変化に反応しやすく、すなわち治療や周囲からの介入にも反応しやすい。そこで本研究では、まずは介入効果が高く実現可能性が高いと思われる時期、すなわち、急性期後早期から精神障害者に対して実施可能な精神科訪問リハビリテーション介入技法を開発する。この新しいリハビリテーション技法を介して、急性期における入院治療・地域医療 急性期後早期からのリハビリテーション 地域生活へと、精神障害者が、円滑かつ安全に地域生活へ移行でき、彼らの社会機能が改善し、そして生活の質(QOL)の向上がもたらされるかどうかについて検証した。

3. 研究の方法

(1) 精神科訪問リハビリテーション介入の開発と社会機能の改善効果検証：

「生活行為向上マネジメント(Management Tool for Daily Life Performance; MTDLP)シート」を用いた精神科訪問リハビリテーション介入が、精神障害者の社会機能の改善への効果もたすかについての検証研究を以前から行ってきた。本研究では、精神障害の急性期後早期の、すなわち必ずしも安定しているとは言いがたい状態の患者に対する、安全性にも十分に配慮した精神科訪問リハビリテーション技法を実施し、この精神科訪問リハビリテーション技法が、精神障害者の社会機能を改善し、かれらの生活の質(QOL)の向上もたすことを検証した。急性期後早期を含む多様な状態の精神障害者に対して実施可能性があるのか、精神症状を悪化させず安全に実施できるのか、そして精神障害者の社会機能を改善するのか、これらについても検証した。

(2) 精神科訪問リハビリテーションにおける地域生活患者のQOL向上因子：

精神科訪問リハビリテーション介入が、作業満足度、社会参加、およびQOLにもたらす効果について、介入群における前後比較法によって検討した。日本国内のアウトリーチ・チームの重度精神障害患者25名(F2(統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害)またはF3(気分[感情]障害)のいずれかと診断された患者、平均年齢46.7歳)を対象とした。WHOQOL-BREF総スコアを従属変数として、ステップワイズ重回帰分析を行った。日常生活動作のパフォーマンスと満足度を10点リカートスケールで評価した主観的評価、Social Functioning Scale(SFS)の合計スコアとサブスケールスコア、Global Assessment of Functioning(GAF)スケールのスコアなどを変数として解析した。

(3) 精神科訪問リハビリテーションの安全性確保のための調査研究：

訪問看護・リハ介入技法の安全性と効果を高める必要がある。もし、急性期治療が患者のトラウマ様体験になれば、また患者の意思が尊重されぬ入院処遇ならば、患者は治療に対して猜疑心を持ちやすく、入院中も退院後も周囲との円滑な関係を構築し難い。これは地域生活のしづらさにつながり、もしトラウマ様体験のフラッシュバックが生ずれば地域生活の継続は困難になる。そこで、トラウマ体験にならぬような急性期患者への処遇が重要であり、そのためには身体拘束最小化は必須である。看護師調査により、身体拘束最小化のための方策を精神科病院2施設の熟練看護師6名に半構造化インタビューを行い調査した。また、既に地域精神障害患者に対してアウトリーチしている看護師に対して質問紙調査を実施し、暴力回避など安全に訪問介入するために必要な方策を調査した。

(4) 保健医療者の地域生活精神科患者に対するスティグマ低減プログラムの開発：

医療・リハビリテーションの専門家が、一般市民よりも強い障害者へのスティグマや偏見を持つことが少なくない。また、精神障害者の急性期後早期の病的体験や対人関係(医療者を含む)は、本人にネガティブな体験として認識されることがあり、それが社会参加をさらに困難にさせる。これらの事実背景から、スティグマや偏見を持たない専門職者を育成することが、精神科訪問リハビリテーション介入の成功の鍵を握る。そこで、専門職向けの教育プログラムを開発し、効果を検証した。

(5)精神科訪問リハビリテーションの臨床展開と家族介護負担軽減へ効果検討：実践結果を事例報告した。さらに、地域生活する患者の支援者である家族介護負担を減らすことが、また患者の地域生活維持や回復に関与する重要事項と考え、家族に向けての家族介護負担プログラムを開発し実施した。

#### 4. 研究成果

(1)「生活行為向上マネジメント MTDLP」を用いることによって精神科訪問リハビリテーション介入群は、対照群よりも、介入中の入院率が有意に低かった。このことから、MTDLPを用いた訪問リハビリテーションが症状を悪化させず、安全に実行可能であることが示された。また、反復測定分散分析の結果から、介入群は対照群よりも対象患者の社会機能を有意に改善することが明らかになった。「働くこと」に対する介入効果も顕著であった。

		介入群 (n=25)		対照群 (n=24)		Time	Group	Time × Group
		mean (SD)	(SD)	mean (SD)	(SD)			
GAF	(pre)	48.24	(15.14)	52.08	(16.71)	0.28**	<0.01	0.11*
	(post)	58.64	(13.62)	54.88	(16.26)			

表1. 重度精神障害者に対する生活行為向上マネジメントを用いた訪問作業療法の効果。反復測定分散分析, P\* < 0.05, P\*\* < 0.01  
Kobe J Med Sci. 2020 Dec 15;66(4):E119-E128. より引用改編。

(2)この精神科訪問リハビリテーション介入によって、精神障害者が日常生活行為に対して満足感を持ち、社会へ参加することにつながり、自身の QOL の向上をもたらすことを明らかにした。

(3)熟練看護師に対する質的研究により、身体拘束最小化に向けた対処として【安全に配慮しながら一時拘束解除から始める】【暴力を受けた看護師への精神的フォローに取り組む】【職場に対して拘束解除への呼びかけを行う】等の10カテゴリが生成された。熟練看護師は、早期解除の困難さを感じながらも、リスクを回避し安全に配慮しながら一時解除などの実質的な策を実行し、解除の呼びかけ、意見や思いの共有、暴力被害の同僚へのフォローなど早期解除に向けて環境づくりを行っていることが明らかになった。急性期後早期の訪問介入において、患者と訪問医療者の両者の安全が保たれることが必須であることから、訪問看護師に対する質問紙調査研究では、訪問の安全に関連する因子を見出し報告した。

(4)スティグマや偏見を持たない専門職者を育成することが、精神科訪問リハビリテーション介入の成功の鍵を握ることから、専門職課程の学生向けの教育プログラムを開発して、そのプログラムが学生のスティグマと偏見を低減させることを明らかにした。

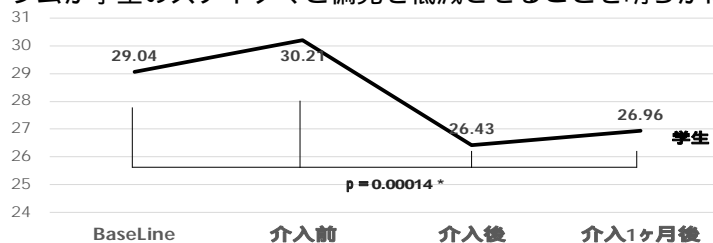


図1. 対話-協同創造プログラムは、保健学学生(N=28)の精神障害者に対するスティグマを低減させる。反復測定分散分析(ANOVA)を実施。日本語版 Link スティグマ尺度(DDS)総得点平均値を表示。Int J Environ Res Public Health. 2022 Nov 2;19(21):14333. より引用改変。

(5)精神科訪問リハビリテーション介入を用いた実践報告をした。ならびに、地域精神障害者を取り巻く環境への働きかけとして家族向けプログラムを開発し介入研究を実施し、その患者回復効果ならびに家族介護の負担軽減効果について報告した。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計19件（うち査読付論文 19件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 13件）

1. 著者名 Nakanishi Eiichi, Tamachi Masahiro, Hashimoto Takeshi	4. 巻 19
2. 論文標題 Effectiveness of a Co-Production with Dialogue Program for Reducing Stigma against Mental Illness: A Quasi-Experimental Study with a Pre- and Post-Test Design	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of Environmental Research and Public Health	6. 最初と最後の頁 14333 ~ 14333
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph192114333	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Kinoshita Eiko, Hashimoto Takeshi, Nishimura Ryoji, Yotsumoto Kayano	4. 巻 e72
2. 論文標題 The influence of self determination on the social functioning of long term day hospitals users with schizophrenia: A randomized controlled trial	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Psychiatry and Clinical Neurosciences Reports	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/pcn5.72	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Mashimo Izumi, Yotsumoto Kayano, Fujimoto Hirokazu, Hashimoto Takeshi	4. 巻 -
2. 論文標題 Factors Influencing Subjective QOL Among Community-Dwelling People with SMI Receiving Home-Visit Occupational Therapy	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Psychosocial Rehabilitation and Mental Health	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s40737-022-00328-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Misato Hirota, Rie Chiba, Shinsuke Aoyama, Yoshihiko Hirano, Kengo Ichikawa, Chieko Greiner, Hirokazu Fujimoto, Kayano Yotsumoto, Takeshi Hashimoto	4. 巻 2
2. 論文標題 Individual Nurse-Led Active Listening Intervention for Spouses of Individuals With Depression: A Pre-/Posttest Pilot Study	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Psychosocial Nursing and Mental Health Services	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3928/02793695-20230524-01	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 増田 千都[田中], 森本 かえで, 橋本 健志	4. 巻 26(1)
2. 論文標題 都市型・通過型診療所デイケア利用者の社会参加「利用経過目安」を用いた実践報告	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 精神障害とリハビリテーション	6. 最初と最後の頁 96-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fujimoto Hirokazu, Greiner Chieko, Mukaihata Tsuyoshi, Hashimoto Takeshi	4. 巻 19
2. 論文標題 Associations between psychiatric home visit nursing staff's exposure to violence and conditions of visit to community living individuals with mental illness	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Japan Journal of Nursing Science	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jjns.12485	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Masuzawa Tatsuhiko, Hashimoto Takeshi, Yotsumoto Kayano	4. 巻 27
2. 論文標題 Subjectively-assessed cognitive impairment and neurocognition associations in schizophrenia inpatients	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Schizophrenia Research: Cognition	6. 最初と最後の頁 100218 ~ 100218
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.scog.2021.100218	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kaede Morimoto, Junko Hoshii, Chito Masuda, Kana Endo, Akiko Sahira, Kayano Yotsumoto, Takeshi Hashimoto	4. 巻 17(1)
2. 論文標題 Impact of COVID-19 on the Employment of and Employment Support for People with Disabilities	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Disaster Research	6. 最初と最後の頁 103-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20965/jdr.2022.p0103	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hirokazu Fujimoto, Chieko Greiner, Tsuyoshi Mukaihata, Takeshi Hashimoto	4. 巻 Mar 28
2. 論文標題 Associations between psychiatric home-visit nursing staff's exposure to violence and conditions of visit to community-living individuals with mental illness.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Japan Journal of Nursing Science	6. 最初と最後の頁 e12485
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jjns.12485	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 関口 瑛里, 廣田 美里, 藤本 浩一, 橋本 健志	4. 巻 36 (12)
2. 論文標題 急性期患者の身体的拘束の早期解除に向けて精神科熟練看護師が感じた困難とその対処について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 精神科治療学	6. 最初と最後の頁 1451 - 1459
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森本かえで, 干飯純子, 野村昌弘, 増田千都, 四本かやの, 橋本健志	4. 巻 25(2)
2. 論文標題 統合失調症を持つ人におけるパソコン操作スキルへの影響因子の検討	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 精神障害とリハビリテーション	6. 最初と最後の頁 175-183
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mashimo I, Yotsumoto K, Fujimoto H, Hashimoto T.	4. 巻 66(4)
2. 論文標題 Effects of Home-visit Occupational Therapy Using a Management Tool for Daily Life Performance on Severe Mental Illness:A Multicenter Randomized Controlled Trial.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Kobe Journal of Medical Sciences	6. 最初と最後の頁 E119-E128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nishigaki S, Fujimoto H, Yotsumoto K, Miou M, Hashimoto T.	4. 巻 36
2. 論文標題 Impact of nurses' providing a simple health check for the family caregivers of patients with severe mental illness on the reduction in caregiver burden.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Bulletin of health sciences Kobe	6. 最初と最後の頁 15-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kodama T, Tamura Y, Komori T, Kataoka M, Igura K, Hashimoto T.	4. 巻 39(3)
2. 論文標題 A Pilot Randomized Controlled Trial of a Text Message Intervention to Promote Help Seeking for Psychiatric Outpatients.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Computers, Informatics, Nursing	6. 最初と最後の頁 154-161
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/CIN.0000000000000636	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 真下 いずみ、田中 和宏、橋本 健志	4. 巻 39
2. 論文標題 生活行為向上マネジメントを用いて作業療法士が地域で介入することで就労が可能となった重症統合失調症患者の一例	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 作業療法	6. 最初と最後の頁 372 ~ 379
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32178/jotr.39.3_372	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 櫻井 友実、橋本 健志、四本 かやの	4. 巻 39
2. 論文標題 日本における精神障害者に対する偏見の文献検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 作業療法	6. 最初と最後の頁 273 ~ 281
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32178/jotr.39.3_273	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中山未央, 四本かやの, 橋本健志	4. 巻 27(1)
2. 論文標題 患者と家族介護者間の手紙交換を訪問リハスタッフが支援することによる患者ADLの改善	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ホスピスケアと在宅ケア	6. 最初と最後の頁 23-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11501/3479582	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山本 敦子, 橋本 健志, 森本 優香, 加藤 正樹, 木下 利彦, 四本 かやの	4. 巻 38(2)
2. 論文標題 社交不安症状のある統合失調症患者に対する作業療法の効果	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 作業療法	6. 最初と最後の頁 213 - 221
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32178/jotr.38.2_213	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hirokazu Fujimoto, Chieko Greiner, Misato Hirota, Yuko Yamaguchi, Hirochika Ryuno, Takeshi Hashimoto	4. 巻 57
2. 論文標題 Experiences of Violence and Preventive Measures Among Nurses in Psychiatric and Non-Psychiatric Home Visit Nursing Services in Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 J Psychosoc Nurs Ment Health Serv.	6. 最初と最後の頁 40-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3928/02793695-20181023-04	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計19件(うち招待講演 0件/うち国際学会 2件)

1. 発表者名 四本 かやの, 奥村 満佐子, 橋本 健志
2. 発表標題 不安障害患者の余暇活動を改善した短期間の作業療法
3. 学会等名 日本作業療法学会56回
4. 発表年 2022年



1. 発表者名 大島 久典, 勝又 知子, 大野 恵梨華, 橋本 健志, 見野 耕一
2. 発表標題 主観的健康状態を考慮した統合失調症者に対する作業療法介入
3. 学会等名 日本作業療法学会56回
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 増澤 達彦, 橋本 健志, 四本 かやの
2. 発表標題 統合失調症入院患者が感じる認知機能障害と神経認知の関係
3. 学会等名 日本作業療法学会56回
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hisanori Ohata, Tamami Yoshida, Masaru Taira, Takeshi Hashimoto, Kiwamu Tanaka
2. 発表標題 Collaborative use of a crisis plan for people with severe mental illness
3. 学会等名 18th WFOT congress 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Izumi Mashimo, Kayano Yotsumoto, Hirokazu Fujimoto, Junko Hoshii, Takeshi Hashimoto
2. 発表標題 Improvement of social functioning in persons with severe mental illness by home-visit occupational therapy using Management Tool for Daily Life Performance: A Multicentre randomised controlled trial
3. 学会等名 18th WFOT congress 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 真下 いずみ, 四本 かやの, 藤本 浩一, 橋本 健志
2. 発表標題 地域在住の重度精神障害者の主観的QOLと生活行為の実行度・満足度との関連 多施設共同研究
3. 学会等名 55回日本作業療法学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 森本 かえで, 目良 幸子, 野村 昌弘, 田中 裕二, 橋本 健志
2. 発表標題 作業療法学生に対する死生観教育プログラムの開発と実践 生と死に関する絵本を教材とした試み
3. 学会等名 55回日本作業療法学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大島 久典, 加賀野井 秀和, 吉田 多真美, 橋本 健志, 田中 究
2. 発表標題 重度統合失調症者に対する訪問作業療法におけるクライシスプランの共同利用練習の試み
3. 学会等名 55回日本作業療法学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤本 浩一, グライナー 智恵子, 向畑 毅, 橋本 健志
2. 発表標題 精神科訪問看護に従事する専門職者が実施する暴力予防策の変化 2020年度調査と2012年度調査の比較
3. 学会等名 31回 日本精神保健看護学会学術集会・総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 真下いずみ, 四本かやの, 藤本浩一, 橋本健志.
2. 発表標題 MTDLPを用いた訪問作業療法による重症精神疾患患者の社会機能と主観的QOLの改善効果検証 多施設共同ランダム化比較臨床試験
3. 学会等名 第54回日本作業療法学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 胡友恵, 菱本明豊, 南陽香, 橋本健志, 四本かやの.
2. 発表標題 統合失調症患者の退院前作業療法における余暇活動支援の効果.
3. 学会等名 第54回日本作業療法学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 四本かやの, 奥村満佐子, 橋本健志.
2. 発表標題 重度抑うつ症状の外来患者に対する作業療法 薬物療法の効果を引き出すために
3. 学会等名 第54回日本作業療法学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 増澤達彦, 馬場麻里子, 西村暢宏, 橋本健志, 四本かやの.
2. 発表標題 就労支援における幻聴の対処への支援 統合失調症の一事例.
3. 学会等名 第54回日本作業療法学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 野田和恵, 橋本健志, 種村留美, 四本かやの, 長尾徹.
2. 発表標題 大学における作業療法士養成コースの海外交流プログラムの試み.
3. 学会等名 第54回日本作業療法学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 重度統合失調症者と地域支援者をつなぐ訪問作業療法の実施.
2. 発表標題 大島久典, 曾我洋二, 干飯純子, 橋本健志.
3. 学会等名 第54回日本作業療法学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大島久典, 田中究, 田川涼葉, 大野恵梨華, 谷川達也, 橋本健志.
2. 発表標題 重度精神障害者に対する地域定着に向けた訪問作業療法での共同作業の試み.
3. 学会等名 第26回兵庫県作業療法学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 四本かやの, 奥村満佐子, 橋本健志
2. 発表標題 適応障害の外来患者に対する作業療法
3. 学会等名 第53回日本作業療法学会 2019年9月
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 真下いずみ, 四本かやの, 橋本健志
2. 発表標題 地域在住の精神疾患患者の生活行為の遂行状況とその主観的価値
3. 学会等名 第53回日本作業療法学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 胡友恵, 菱本明豊, 南陽香, 橋本健志, 四本かやの
2. 発表標題 余暇活動への介入により健康状態の自己評価が向上した統合失調患者の事例
3. 学会等名 第27回日本精神障害者リハビリテーション学会 2019年11月
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 橋本健志	4. 発行年 2021年
2. 出版社 文光堂	5. 総ページ数 12
3. 書名 薬物療法 精神科でよく用いる薬 . 図解作業療法技術ガイド第4版.	

1. 著者名 橋本健志	4. 発行年 2021年
2. 出版社 文光堂	5. 総ページ数 2
3. 書名 精神障害の分類と診断. 図解作業療法技術ガイド第4版.	

1. 著者名 橋本健志	4. 発行年 2021年
2. 出版社 文光堂	5. 総ページ数 3
3. 書名 症状性を含む精神障害. 図解作業療法技術ガイド第4版.	

1. 著者名 橋本健志	4. 発行年 2021年
2. 出版社 文光堂	5. 総ページ数 3
3. 書名 精神作用物質使用による精神および行動の障害. 図解作業療法技術ガイド第4版.	

1. 著者名 橋本健志	4. 発行年 2021年
2. 出版社 文光堂	5. 総ページ数 5
3. 書名 統合失調症. 図解作業療法技術ガイド第4版.	

1. 著者名 橋本健志	4. 発行年 2021年
2. 出版社 文光堂	5. 総ページ数 5
3. 書名 気分障害. 図解作業療法技術ガイド第4版.943- p947. 2021.	

1. 著者名 橋本健志	4. 発行年 2021年
2. 出版社 文光堂	5. 総ページ数 5
3. 書名 神経症性障害, ストレス関連障害および身体表現性障害. 図解作業療法技術ガイド第4版.	

1. 著者名 平良勝, 橋本健志.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 文光堂	5. 総ページ数 3
3. 書名 生理的障害および身体要因に関連した行動症候群. 図解作業療法技術ガイド第4版.	

1. 著者名 橋本健志	4. 発行年 2021年
2. 出版社 文光堂	5. 総ページ数 2
3. 書名 成人のパーソナリティーおよび行動の障害. 図解作業療法技術ガイド第4版.	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	四本 かやの  (Yotsumoto Kayano)  (10294232)	神戸大学・保健学研究科・准教授   (14501)	
研究分担者	田中 究  (Tanaka Kiwamu)  (20273790)	神戸大学・医学研究科・非常勤講師   (14501)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	藤本 浩一  (Fujimoto Hirokazu)  (20467666)	兵庫医療大学・看護学部・准教授    (34533)	
研究分担者	平良 勝  (Taira Masaru)  (30444574)	神戸大学・医学研究科・医学研究員    (14501)	
研究分担者	大畠 久典  (Ohata Hisanori)  (40726014)	神戸大学・保健学研究科・保健学研究員    (14501)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関